

課題3 地域特性

～マンション住民と近隣住民との交流に向けて～

マンションの公開空地での交流イベント

【1 現状・課題】

- あるマンションでは、築年数を経るにつれ住民の入れ替わりが進んでおり、住民同士の交流や、マンション自治会活動を担う若い世代などの掘り起こしが課題となっています。
 - このマンションは所有者等の承諾を得て、浸水時緊急退避施設※1として市から指定されており、地域への認知度を上げるため、マンションの近隣住民と交流する機会を増やしていくことも必要です。
- ※1 津波や洪水、高潮等の際に、避難場所等への避難の途中で切迫した浸水の危険にさらされた場合に、近隣住民等が緊急・一時的に退避することができる施設

【2 地域におけるこれまでの取組内容】

- マンション自治会が毎年マンション住民向けに行っている恒例行事の規模を拡大し、マンション敷地内の公開空地で、近隣住民も参加できる交流イベントを開催しました。
- イベントでは、被爆詩朗読、カラオケ大会、お笑い、落語、バルーンアートなど住民の様々な特技などを披露し、親・子・孫の3世代が楽しめる内容としました。また、飲食の販売コーナーを設け、リラックスした雰囲気の中で交流しました。
- イベントの一環として、近隣住民にマンションへの出入りの方法や避難スペースについて説明しました。

▼イベントの様子



【3 行政等からの支援】

- 交流イベントの実施に当たり、市の区の魅力と活力向上推進事業補助金※2を交付しました。

※2 〔補助対象〕 3人以上で構成される団体

〔補助限度額〕 初年度：100万円、2年度：70万円、3年度：35万円

【4 これまでの成果】

- 3世代が楽しめるよう工夫したことで、若い世代のイベントへの参加が増えました。
- マンションの恒例行事を地域に開放したことで、マンションの住民同士だけでなく、近隣住民とのコミュニケーションや、顔見知りの関係が広がり、地域に連帯意識が生まれました。
- 地域の思いに共感した地元のスーパーなどがイベントに協賛してくれるなど、地元企業とも良好な関係を築くことができました。
- 交流イベントの開催により、マンションが浸水時緊急退避施設であることを近隣住民に周知することができました。

【5 今後の更なる活性化のための取組の方向性】

- 共助の取組として地域では、こうした交流イベントを継続して開催することを検討しています。
- 公助の取組として行政等では、地域からの求めに応じて、行事の企画などへの助言や補助金等※3の活用などの提案を行います。

※3 “まるごと元気”地域コミュニティ活性化補助金、区の魅力と活力向上推進事業補助金

他地区で展開する際のポイント

- ◎ マンションでは住民同士の交流や近隣住民との関係が希薄になりがちです。幅広い世代が楽しく集えるイベントを開催したり、住民の関心が高い防災活動を取り入れることで、マンションと近隣の地域との交流が深まることが期待できます。

課題3 地域特性

～住宅団地の特性を生かしたにぎわいづくり～

自宅の開放から始まるにぎわいづくり

【1 現状・課題】

- 住宅団地では、住民の高齢化や人口減少、空き家などの問題により、にぎわいの低下、住民同士の関係性の希薄化等の課題があります。

【2 地域におけるこれまでの取組内容】

- ある住宅団地は、区画、街並み・景観など良好な環境を有しており、景観を生かして自宅の庭を開放する人や、自宅の室内を開放し陶芸や彫金を展示する人がいました。
- 住民の有志が、この取組を人が交流するきっかけとなる場や、自分たちの生きがいや趣味として取り組んできた創作活動や文化・芸術活動の成果を発表する場にしたいと考え、実行委員会を立ち上げ、自宅を開放したアート展を企画・開催しました。
- 今では、団塊の世代の女性を中心に多くの住民が出展し、毎年5月の3日間、自宅での絵画や陶芸、手作りアクセサリーの展示や、花やハーブを植えた庭の開放、団地内の集会所でのコンサートなどを開催しています。
- 展示会の出展者から会費を徴収するほか、バザーの開催、さらには、団地内外の商店から協賛金を募っています。
- 新型コロナウイルス感染症の影響により、展示会の開催が困難な状況においても、暮らしの中のアートや作品をフェイスブックなどで発信することにより、継続した活動となるように努めています。

▼アート展の様子



▼アート展のマップ



【3 行政等からの支援】

- 地域の自主・自律的な取組です。

【4 これまでの成果】

- テレビや新聞などに取り上げられ、団地内外から1,000人を超える人が訪れるイベントとなっています。
- 自宅を開放する人が増え、開催日が近づくと、近所の人も自宅の前を花で飾るなどの光景が見られるようになりました。また、イベントの開催に向けて住民が協力し合うことで、普段から声を掛け合う機会が増えました。

【5 今後の更なる活性化のための取組の方向性】

- 共助の取組として地域では、更なるイベントの充実に向けて、出展者を増やすとともに、若い世代にも参加してもらいたいと考えています。
- 公助の取組として行政等では、イベントがより多くの住民の交流の機会となるよう、実行委員会の住民有志と地域団体や企業など、多様な主体との連携を支援するとともに、地域からの求めに応じて助成金※の活用などを提案します。

※ 市社協の地域団体連携支援基金事業費助成金

☞ 他地区で展開する際のポイント

- ◎ 高齢化、人口減少、空き家等の課題を乗り越えて行う団地特有の良好な景観を生かした小さな取組が、団地全体のにぎわいの創出や住民の良好な関係性の構築につながります。

課題3 地域特性

～中山間地におけるコミュニティの持続に向けて～

地域活性化に向けた作戦会議

【1 現状・課題】

- 自然や文化、こだわりの食など、地域資源は豊富ですが、地域住民や事業者による活性化の取組が一体的・持続的なものになっていない状況です。
- 学校の存続が危がまれるなど、人口減少、少子高齢化により地域が衰退しています。

【2 地域におけるこれまでの取組内容】

- 地域に人を呼び込み、交流人口の増加を図る地域活性化プランを作成するため、話し合いの場(地域活性化推進協議会)を設置しました。
- 地域内にある小学校と中学校の今後のあり方について、意見交換する会との連携を図りました。

【3 行政等からの支援】

- 協議会の設置に向けて、メンバー選考を調整しました。
- 協議会の開催に向けて、スケジュールを調整し、会場を借りました。
- 話し合いを円滑に進めるため、コーディネーターを派遣しました。

地域活性化推進協議会

〈構成員〉 町内会長ほか地域団体代表者、民間事業者、小中学校
PTA役員、市関係部局 等 約30名
〈役割〉 活性化プランの策定(エリアイメージと、エリアイメージに基づいた基本方針と具体的な取組の決定)
→ 協議会のメンバーを中心に、各作業部会で具体的な取組を進めています。

温泉×スポーツ 部会

スポーツ王国広島の湯治場を目指す取組

自然・文化×体験 部会

自然と文化を生かした非日常を味わう取組

食×こだわり 部会

地域の食材を生かしたこだわりの食を感じる取組

小学校・中学校に関する 意見交換会

〈構成員〉
地域住民、小中学校PTA
役員、小中学校長、民間
事業者 等 約30名

〈役割と協議〉
・小中学校の現状、教育
面の課題等に関する認識
を共有
・学校のあり方について
の意見交換

互いの議論を反映

【4 これまでの成果】

- 地域の特長を象徴的に表し、取組の方針を示すエリアイメージを決めることができました。
- エリアイメージに基づいて、地域資源ごとに作業部会を設置し、具体的な取組の実施に向けて検討を開始しました。
- 話し合いを重ねる中で、これまで各々で行っていた活動の情報を共有し、連携する下地ができつつあります。

【5 今後の更なる活性化のための取組の方向性】

≪スポーツ王国広島の湯治場の実現に向けて≫

- 共助の取組として協議会(部会)は、地域の特性を生かした体験プログラムの実施等により、スポーツ王国広島の湯治場の魅力を創出していきます。
- 公助の取組として行政等は、トップアスリートへの働きかけや、アスリート等が湯治場として利用しやすいよう小中学校校舎等の有効活用策を協議会と共に検討し、施設改修等の支援を行うとともに、取組のビジネス化に向けて事業者との連携を図ります。

他地区で展開する際のポイント

- ◎ 地域の多様な年代の、多様な人が協議会に参加し、話し合うことで、担い手の裾野が広がります。
- ◎ また、様々なアイデアが出てきたり、考え方に触れることで、取組の可能性が広がり、議論が盛り上がり、そして楽しい場となっていきます。
- ◎ 地域の活性化は、議論の活発化にかかっています。

課題3 地域特性

～中山間地の集落の再生に向けて～

自らの手で整備する地区の魅力づくり

【1 現状・課題】

- ある地域では、かつては林業で栄え、30世帯80人以上が暮らしていましたが、過疎と高齢化が進んだ結果、3世帯3人まで減少し、空き家は廃屋となり、田畑は荒廃するなど、集落が消滅の危機を迎えていました。

【2 地域におけるこれまでの取組内容】

- この地区の出身者30名以上が集まり、ふるさとを荒廃から守り、かつてのにぎわいを取り戻すための組織を立ち上げました。
- 地域外から人を呼び込めるよう、荒廃していた休耕田に、組織会員が自らの手でバーベキュー施設や子ども向け遊具、芝生広場、釣り堀、テントサイトなどを備えた交流広場を整備し、管理・運営も自ら行っています。
- 長い間、未利用市有地となっていた土地の活用に関する協定を区役所と締結し、会員が自ら重機に乗って少年野球やサッカーのできるスポーツ広場を整備した上で、地域住民と協力し維持管理を行っています。
- 会員の生家で空き家となっていた古民家4軒をDIY(自ら製作・修繕などを行うこと)で改修し、田舎暮らしを体験できる民泊(旅行者などによる民家での宿泊)の運営などを行っています。
- 地域の利便性の向上と災害時の避難経路の確保のため、地権者に了解を取った上で、狭く行き止まりだった地区内の道路に、周回できる回路を整備しました。

交流広場



整備作業・草刈り



民泊施設



地域周回通路



【3 行政等からの支援】

- 市の区の魅力と活力向上推進事業補助金※1を交付し、再生に向けた活動を支援しました。
※1【補助対象】3人以上で構成される団体
【補助限度額】初年度：100万円、2年度：70万円、3年度：35万円

【4 これまでの成果】

- 市近郊から若いファミリー層を中心に、交流広場やスポーツ広場、民泊施設を利用してもらい、数千人もの来場者・宿泊者があるまでになりました。
- 閑散としていた地区に、子どもたちの声が響き、活気が戻ってきました。
- 若い世帯が移住してきて、施設の管理・運営も手伝ってくれるようになりました。

【5 今後の更なる活性化のための取組の方向性】

- 共助の取組として地域では、持続的な地域の活性化に向けて、より多くの人たちに地区を訪れてもらうための新たな仕掛けを検討し、実行します。
- 公助の取組として行政等では、更なる取組を支援するため、地域からの求めに応じて補助金※2の活用などを提案します。
※2 区の魅力と活力向上推進事業補助金

他地区で展開する際のポイント

- ◎ この事例では、建設業に携わる会員などが協力し合い、施設等の整備を行っています。地域が一体感を持ってまちづくりを進めるためには、地域の様々な人材のスキルを活用するという視点が重要です。

課題3 地域特性

～若者の視点を生かした地域資源の掘り起こし～

休耕田を活用した地域の魅力づくり

【1 現状・課題】

- ある地域では、高齢化や土砂災害の影響により、休耕田が増え、地域の活力が低下しています。

【2 地域におけるこれまでの取組内容】

- 地域の魅力を掘り起こし、中山間地域の地域課題に取り組む地域外団体と若者たちが、自然環境や地域の歴史、休耕田を地域資源として捉え、自治会や地元の酒造会社等と協力し、休耕田で再び米を育て、地域オリジナルの酒づくりへの挑戦を始めました。
- 田植えや収穫時に地域外から多くの若者を呼び、地元農家に教えてもらいながら作業を行ったり、収穫祭や草刈り体験などのイベントを行い、住民と若者の交流の場をつくっています。

▼田植えの様子



【3 行政等からの支援】

- 市の区の魅力と活力向上推進事業補助金※1を交付し、地域資源の掘り起こしを支援しました。
※1 【補助対象】 3人以上で構成される団体
【補助限度額】 初年度:100万円、2年度:70万円、3年度:35万円

【4 これまでの成果】

- 地域外の若者が定期的集う機会を作ることで、地域住民と地域外の若者の関係づくりにつながっています。
- イベントなどに参加し地域の自然や取組に魅力を感じた若者が地域に移住しています。

【5 今後の更なる活性化のための取組の方向性】

- 共助の取組として地域では、今後も地域外の団体や若者などと協力して地域の魅力を発見・発信し、より多くの人を呼び込み地域を元気にしたいと考えています。
- 公助の取組として行政等では、地域団体やグループ等が連携して行う地域資源を活用したまちづくりを支援するため、地域からの求めに応じて補助金等※2の活用などを提案します。
※2 “まるごと元気”地域コミュニティ活性化補助金、市社協の地域団体連携支援基金事業費助成金

☞ 他地区で展開する際のポイント

- ◎ 行動力のある若者や外部人材を積極的に受け入れることが大切です。
- ◎ 地域の課題が若者などのやりたいことや得意なことと結びつくことで、楽しく課題解決が進んだり、地域の持続可能性が高まるきっかけとなります。

課題3 地域特性

～地域の新たな魅力づくりに向けて～

ふるさとの特長を生かしたワインづくり

【1 現状・課題】

- ある中山間地の地域では、平坦地の少ない土地には標高190m～500m付近まで、古くは室町時代から積み上げられた石垣による段々畑が続いています。
- しかし、若い世代の後継者がおらず、休耕地となっている畑も多くあり、地域の活力が低下しつつあります。

【2 地域におけるこれまでの取組内容】

- 平成20年に、ソムリエの資格を持つ青年がふるさとで栽培したブドウで造ったワインを広く皆さんに飲んでもらいたいという思いから帰郷し、休耕地となっていた畑でブドウの栽培を始めました。
- 休耕地の持ち主は、青年のワインづくりへの思いや地域を元気にしたいという気持ちに共感し、土地を貸しました。

▼ブドウ畑の様子



▼完成したワイン



【3 行政等からの支援】

- 地域の自主・自律的な取組です。

【4 これまでの成果】

- この土地ならではの味わいを表現するために、育つ環境によって味が変わりやすいブドウの品種を選び、試行錯誤を重ね、平成27年にワインの商品化に成功しました。
- ワインが有名になることで、ふるさとを元気にしたいという思いから、SNS(インターネット上の会員制交流サービス)などを活用して積極的に情報発信し、ブドウの収穫時期には、ワインづくりに興味を持つ人を広く募集し、ブドウの収穫を体験してもらうなど、地域の魅力を再発見してもらっています。
- ワインの味わいや生産者の思いに魅力を感じたファンが増えており、地域の情報誌などで取り上げられるなど、地域の魅力の一つとして認知されつつあります。

【5 今後の更なる活性化のための取組の方向性】

- 共助の取組として地域では、こうした若い世代を応援することで、地域を元気にする取組を継続していきたいと考えています。
- 公助の取組として行政等では、こうした地域資源を積極的に広報するなど、取組の後押しをしていきます。

他地区で展開する際のポイント

- ◎ 初めは地域を元気にしたいという一人の思いであっても、それを地域全体で応援していくことで、新たな地域の特産品が生まれ、地域に魅力を感じる地域外の人材との交流につながります。

課題3 地域特性

～島しょ部におけるコミュニティの持続に向けて～

地域の将来像を考える活性化ビジョンづくり

【1 現状・課題】

- 離島という環境の中で、人口減少、少子高齢化が著しく、このままでは地域自体の存続が危ぶまれる状況です。

【2 地域におけるこれまでの取組内容】

- 若手住民を中心に島の将来像を検討する話し合いの場(座談会)を設置しました。
- 地域住民、行政、関係者が地域の課題と目指す姿を共有し、持続可能なまちづくりに向けた地域の活性化ビジョンを作成しています。

座談会の概要

〈構成員〉 若手住民等 10名(イベント開催時の実働要員)

〈役割〉 島の将来像とそれを実現するために必要な取組を検討

▼座談会での話し合い



【3 行政等からの支援】

- メンバー選考の調整など座談会の立上げ支援を行いました。
- 活性化ビジョンの作成のため、まちづくりのコンサルタントへの委託を行っています。

【4 これまでの成果】

- 地域住民を中心に話し合いを重ねる中で、地域の目指す姿を地域住民、行政、関係者で共有できました。

【5 今後の更なる活性化のための取組の方向性】

≪暮らしの課題に対する取組≫

- 共助の取組として地域住民は、島内交通の実現可能性を探るため、ニーズや運行体制等を検討します。
- 公助の取組として行政等は、その検討結果に応じて国の制度*の活用も含め、支援します。

※ スマートアイランド推進実証調査

グリーンスローモビリティ(低速で公道を走ることができる電動車)を活用した島内交通の可能性について調査・検証

≪島の活性化に資する取組≫

- 共助の取組として地域は、再整備する島内の宿泊施設(公共施設)を活用し、住民が自らその運営に関わるための方法や体制について検討します。
- 公助の取組として行政等は、その実現に向けて指定管理者との調整を行っていきます。

≪将来を見据えた取組≫

- 隣接する島しょ部との連携について、地域住民と本市、近隣市町とともに周遊プログラム等を検討します。
- 空き家の利活用等に関する相談会を実施し、提供可能な空き家を掘り起こし、空き家バンク(空き家を利活用したい人にその情報を紹介する制度)を活用して島ぐらしに関心のある人とのマッチングを図り、定住を促進します。

他地区で展開する際のポイント

- ◎ 地域を担う若い世代が当事者意識を持てるかが重要です。若手住民を中心としたメンバーで議論をすることも一つの手法です。
- ◎ コンサルタントを活用するなど、議論を見える化することで共通認識を持つことが大切です。
- ◎ 議論の中で出てきた課題に対して、勉強会を実施するなど、できることはすぐに取り組み、地域の皆さんで進めている、進んでいるという感触を共有することが重要です。

課題3 地域特性

～空き家の活用による地域コミュニティの再生～

空き家を活用した地域の活性化の仕組みづくり

【1 現状・課題】

- 空き家が生じる要因は、相談先が分からない、住んでいた家を知らない人へ渡すことへの抵抗感、家財の処分や移転に対する負担感など様々ありますが、とりわけ中山間地域では、不動産価値が高くないこと等もあって事業者が積極的に取り扱わないなどの理由から、空き家そのものが活用されず、放置されている状況にあり、地域の環境を悪化させるだけでなく、衰退を加速させかねません。

【2 地域におけるこれまでの取組内容】

- 中山間地域のある地区では、自治会連合会が空き家の所有者から収集した情報をもとに、地域団体が現地調査を行った上で、県の空き家バンク(空き家を利活用したい人にその情報を紹介する制度)を通じて情報を発信し、問い合わせのあった人を現地に案内しています。

【3 行政等からの支援】

- 区役所が窓口となって県(空き家バンク)と地域団体との連絡調整を行っています。

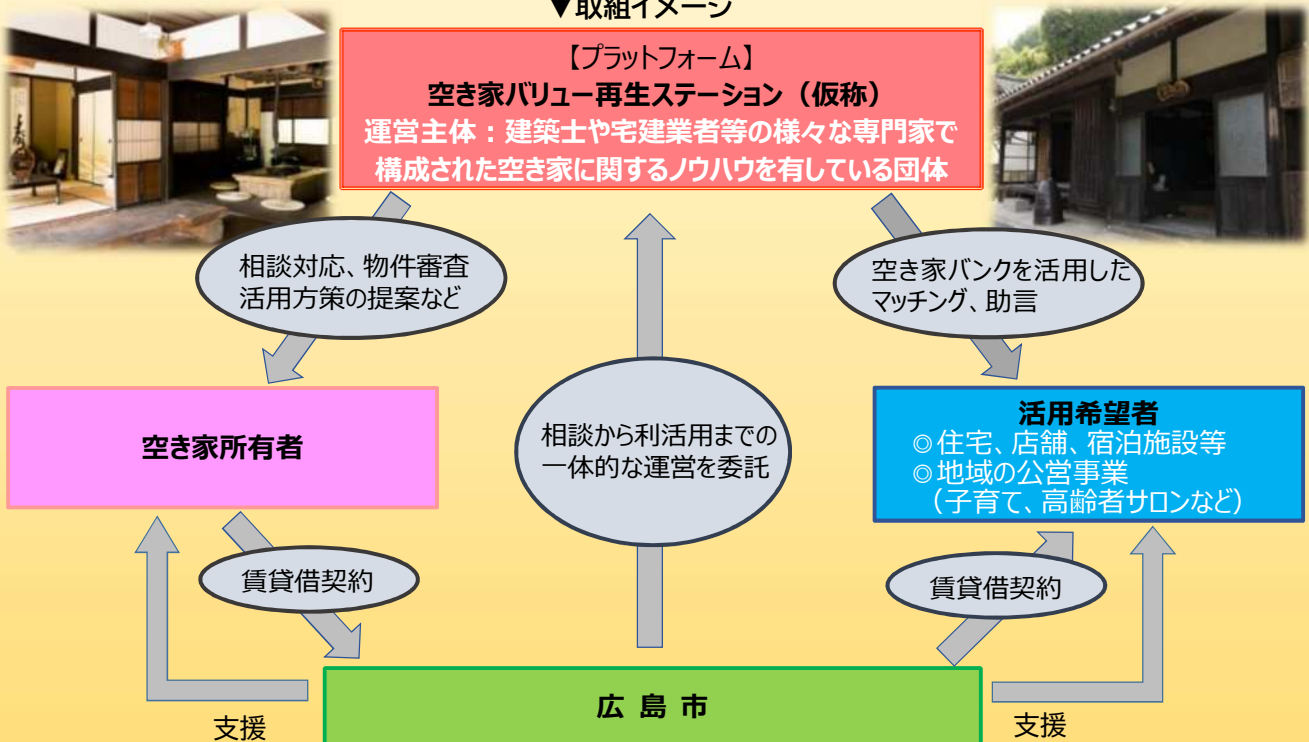
【4 これまでの成果】

- 平成28年度から令和3年度までの6年間で14件の成約につながりました。

【5 今後の取組】

- 空き家に関する様々な相談や利活用を一体的に行うプラットフォーム(物やサービスを利用する人と、提供者をつなぐ場のこと)を設置し、所有者が安心して空き家のことを相談し、任せられる取組体制を構築します。
- 市は空き家所有者から空き家を借り上げ、活用希望者に貸し付けるとともに、リフォーム(小修繕)・リノベーション(改築)に係る費用を補助します。
- 上記取組を通じて、中山間地域の空き家を新たな価値を付加して地域の魅力スポットとして再生し、あるいは中山間地域への定住を促進するための住居として有効活用することにより、空き家放置の解消と地域の活性化を図ります。

▼取組イメージ



☞ 他地区で展開する際のポイント

- ◎ 上記の仕組みをモデル的にいくつかの地域で実施し、より使いやすい仕組みにしていきます。
- ◎ 空き家を活用することで地域コミュニティの活性化につながる成功事例を増やしていきます。